

田原総一郎さん、土岐市で講演

東信土岐地区経済倶楽部は27日、講演会を土岐市土岐津町高山のセラトピア土岐で開き、評論家でジャーナリストの田原総一郎さんが「時代を読む」と題して経済を展望した。
(野中準二)



「時代を読む」と題して講演する
田原総一郎さん＝土岐市土岐津
町高山、セラトピア土岐

日本「落ちこぼれる」

挑戦しない企業に警鐘

田原さんは20年後、平均寿命は100歳になり、働く期間を含めて人生設計を見直さなければならないと説明。大企業は5代でも昇

進でモモチベーションは低い、給料は高い社員がおり、新入社員をどうするかも悩みとした上で、「年功序列賃金と、失敗が許さ

れないサラリーマン経営者が多く、挑戦しない」と問題を指摘した。日本企業は世界の中で後れており、このままでは完全に落ちこぼれると警鐘を鳴らした。

東京五輪後の景気については、「米国が強気なのに加え、日本ではビルの建設計画があることから、政府は意外に強気だ」と紹介。地方の活性化については「インターネットがあり、企業は東京にいる必要はない。再生可能エネルギーにも力を入れれば活性化する」と助言した。

同倶楽部は東濃信用金庫の土岐市内7店舗の取引先約280社で組織。講演会は会員や市民約280人が聴講した。講演会前の総会では、玉樹成三会長ら役員を再任した。